

国立白門会
創立二十周年記念誌

はばたき Ⅱ



中央大学学員会国立支部



ご挨拶

中央大学学会国立支部

支部長 能味寿哉

わが国立白門会が創立十周年を記念して発行した「はばたき」を会員皆さんのお手元まで差し上げたのはちょうど一昔前の昭和63年のことであります。

当時、副会長をつとめた福谷実現相談役が独力でまとめられた冊子で、今手にとり読み返してみても、その内容の豊かな記述には心から頭が下がる思いがします。本当にご苦労さまでした。この記念誌からは、創立の労をとられた初代村田亘会長の在りし日のことどもが十分にかがわれますが、また同時にご他界になった方が多い現実にも胸のいたむ心境であります。井上定男副会長、事業部を担当された佐藤勝博さんと久保田利雄さん、お三方のご尽力を頂いた生前のご活躍を偲ぶと、懐かしいお顔が彷彿として浮かんでまいります。

平成5年3月23日物故された村田前会長。その半年前特命をもって会長代行に就任した私でしたが、何より同窓生の輪を広げ、その和合結集を図り、組織の充実と発展のため微力を傾けて今日に至りました。幸い、私が先頭に立った道は歴代副会長、歴代幹事長といった要の方々を私をよくサポートして下さって輝かしい成果を挙げられました。誠に欣快にたえません。勿論、役員名簿に名を連ねる多くのいわば世話役の諸兄諸姉の皆さんには、これまでのご支援ご協力がなければやって来れなかった訳で、改めて深甚なる感謝の言葉を申し上げる次第であります。

さて、昭和63年の会興隆の頃から平成10年にわたる激動の年代において、また文教都市、国立において、私どもの白門会が果たしてきた社会的役割など、その軌跡を再び取りまとめて世に送ることにいたしました。それが、「はばたきⅡ」の発刊であります。

今春以来、執行部は創立二十周年記念事業の一環として、式典、祝賀会と併せ記念誌の編集を目標に掲げ、このたびは専ら写真集として親しみやすい体裁のものに仕上げるよう心掛けました。堀田勲副会長を中心とした編集委員会は、丸本大副会長や風間健幹事長、平本聖子広報部長をまじえ原稿の収集、整理からはじめて漸く11月印刷の運びとなりました。写真を提供された山崎武、山村鶴音、二宮巍の三相談役にもお世話になり、厚く御礼申し上げます。

国立白門会、正しくは中央大学学会国立支部と称しますが、数多い支部の中で、このような記念誌を刊行できます喜びを、亡き先輩方にもご報告申し上げ、次ぎなる飛躍のためご加護を賜りますようお願い申し上げる次第であります。



国立市の歴史的シンボル「谷保天満宮」



国立白門会 発足のルーツ
駅前ブランコ通り「レッドトップ」



国立白門会二十周年を祝って

中央大学学会副会長

国立白門会顧問 市橋千鶴子

このたび国立白門会が人間でいう成人式を祝われるとのこと、まことにおめでたい限りです。これも偏に歴代会長を始めとする役員、会員の皆様方の一方ならぬお骨折りによるもので、会員のひとりとして心からお祝いを申し上げます。

就中、会結成に至るまでの村田巨前会長のご熱意には並々ならぬものがあり、また会設立後わずか4年で支部設立の念願を果たされたそのご努力には正直云って驚かされました。

会の創立当初からご相談をいただいて、顧問の立場でお目にかかる度に、「支部承認」を早く受けようとお勧めしていたものですから、昭和57年5月28日の学会会の幹事会では、責任を感じて夢中で応援演説をし、全会一致で「国立支部承認」の案件が成立したその瞬間には、まさに胸が熱くなりました。

しかし、会報に能味会長が書かれておりますように、この幹事会が谷村唯一郎学会前会長の最後の仕事になられようとは、当日誰一人予想もし得ないことでした。

また母校中央大学の百周年募金に際しても、村田前会長の身を挺してのご活躍振りには目を見張るばかりのものがあり、いまでも学会会において語り草になっているくらいです。

一方、能味会長の着眼点のよさには常々敬服申し上げているところですが、ご就任早々の全国支部長会議で、学会会の親睦事業としての句会実施を提案されました。

偶然堂野前学会会長のご意向とも一致して、平成5年4月から學員時報に「中央俳壇」、翌平成6年5月から月例の「中央俳句会」が誕生し、いまに至るまで順調な発展を遂げています。しかし、当初から大変なご協力をいただいた俳壇の重鎮石原八束先生のご逝去に伴い、身の程知らずにも選者の大役を私がお引受けすることとなり、何かと能味会長をはじめ国立白門会会員の皆様方にも親身のご協力をいただきながら、重責を全うさせていただいているところです。

私も、目下のところ四期目の学会副会長として忙しく暮らしており、さらに谷前市長（顧問）によって昭和55年4月ご任命をいただいた国立市法律顧問もまだ現職でございますので、今後とも会の皆様にはご協力をお願いすることが多々あろうかとぞんじます。

今後、一層の国立白門会のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げ、右謹んでお祝いを申し上げます。

国立白門会の発足

国立白門会発足の経緯については昭和63年6月12日発行の「はばたき」に前会長の村田巨氏が「国立白門会ひとりある記」と題して詳しく記しておられますが、その後、会員になられた方もありますので能味会長が国立白門会ニュース第32号に寄稿されました「国立白門会を創った人々」の中で諸先輩のご苦労を記しておられますのでその要旨を掲載いたします。

国立白門会を創った人々

会長 能味寿哉

今から20年前の2月のある夜、国立駅前ブランコ通りにあるパブ「レッドトップ」で水割りをしてたしなまれていた村田巨さんは、偶然、同じ学員仲間だった関喜一さんたちと出会う。歓談の果て、関さんから「先輩、国立に是非白門会を創って下さいよ」と懇願されたのが、我が会のそもそもの発端になった。その辺の経緯については、福谷氏が編集された「創立10周年記念誌」（はばたき）の中に詳しいが、昭和53年5月21日に開催された創立総会では、次の顔ぶれがきまった。

会長	村田 巨	幹事長	福谷 実	幹事	山崎 武	笠原勝雄
副会長	井上定男	副幹事長	関 喜一		久保田利雄	石川武夫
”	五十嵐力	会計	南川義昭		田口正明	山下一夫
		会計監査	佐藤勝博		西野堅吉	

実は私のよく存じ上げない方もおられるが、幸い皆さんの協力によって4年後には108名の終身会員を把握でき、正式名簿を添えて学員会国立支部への昇格を申請することとなる。

そして僅か2ヵ月後には、学員会幹事会で支部昇格が承認され、当時の谷村唯一郎会長から昭和57年5月28日付けで承認通知を頂くというスピーディな進展だった。

在野法曹界から初めて最高裁判事に就任された谷村さんは承認日付の翌日、急のご病気で他界された。まことに因縁めいた忘れられない史実としていつも村田さんの語り草になっていた。

創立当初、顧問にお迎えした中西 旭、池田油太郎、井上謙二郎、市橋千鶴子の諸先生のうち、お元気でおられるのは中西、市橋両先生で、現在も御高庇いただいている。

さて草創期の熱気はすばらしかった。村田会長の陣頭指揮もさることながら、まだ若かった役員諸氏の情熱がよく一つにまとまり毎月必ず集まっては何か企画し、また運営に携わったことが懐かしい。ヘビースモーカーだった村田会長の語るシンガポール野戦病院の主計長の苦勞談、山形県人らしい温厚誠実な井上副支部長の女房役ぶり、銀座で商売をなさっているという佐藤さんの生国秋田県への傾倒ぶり、（第一回のバザーでの多種多商品の提供）今、国立市と秋田県合川町との深いかかわりのはじまりである。色んな事業に必ず妙案を出してくれた小柄の久保田さん、自宅マンションの一室で自分は飲まないのに高級スコッチなど気前よく飲ましてもらったことも、感謝の気持ちでいっぱいである。

村田 亘 前会長を偲ぶ



国立白門会副会長 丸本 大

村田前会長が国立白門会の初代会長であったことは周知のことですが、十四、五年の間会長を続けられた中で、歴代幹事長の一人としては、一番長い期間、ご一緒させて頂いたのではないかと思います。

振り返れば、富士見台団地の会長を初め、地域の活動に大変積極的に活躍された方でした。その頃私は同じ団地に居住していたのですが、国立白門会の創立のおさそいを受ける迄は、職場と住まいの往復の毎日で、あまり地域の行事には関心がありませんでした。脱サラをはじめて間もなく、比較的自由時間のとれた時期があり、丁度その頃に国立白門会が創立され、一会員になりました。

幹事長の役職をお受けして、会長の顔の広さや、学識の高さに、いつも頭の下がるばかりでした。そんな一時期、数人の役員と一緒に会長のおさそいを受け、銀座の一流天ぷら料理店で会食をしたことがありました。会長の仕事関係先でしたが、大変楽しいひと時を持ったことがなつかしく思い出されます。

また今は喫茶店ロージナが役員会の定席となっていますが、スタート時には、現在の西友店の地下にあった関さんの一室で会合したこともありました。時には役員会のあと数人で当会の発足のきっかけとなりましたパブ「レッドトップ」のカウンターに立ち寄ることもありました。

会長は大変几帳面な方で、ズボラな私は、度々尻をたたかれながら役をさせて頂きました。そのおかげで、現在、他のボランティア活動をする上で大変役に立っており、感謝しています。

これからも、村田前会長の地域に根づいた国立白門会の活動を継承し、母校中央大学のPRに努力したいと思えます。

尚、右の写真の井上副会長も今は故人となりました。



【写真】左から

風 能 福 村 丸 井 山 堀
間 味 谷 田 本 上 崎 田

青梅市郷土博物館古民家前にて(昭和62年5月24日)

活 動

① 役員会

会の行事等は役員会で話し合い細目を決定している。

開催は必要に応じて会長、幹事長が中心となって、開催の日時、協議内容等を決定して役員を招集している。

年間の開催回数は大体10回程度である。出席メンバーは会長、幹事長、会計、各部長10～12名というところである。

会議の拠点は駅前の喫茶店“ロージナ”と決まっている。いつも階下の静かな部屋を用意してくれるが時々一橋大学の学生集団と一緒にいることがある。その時は静かな筈の地下室が逃げ場を失った話し声で騒音の“るつぼ”と化する。

役員会の日に木製のドアを押して中に入ると、店主で、また国立では有名人である伊藤さんが「国立白門会さんは地下ですよ」と声をかけてくれる。このお店のお勧めはコーヒーは勿論であるがスパゲティーとピラフ。注文したら大きな皿に山盛り出てくる、とても一人では食べきれない。、聞くところによると、昔から学生さんにはお腹いっぱい食べてもらうというお店の心意気とか、うれしいではありませんか。



役員会の定場所 喫茶ロージナ



伊藤さん

② 定時総会

総会は毎年1回開催される。

前年度の事業報告、決算報告、会計監査報告、当年度の事業計画、予算案等を審議したあとで学員会本部、近隣支部からのご来賓を交えて懇親会を開き、親交を深めている。

毎年、懇親会は和やかな雰囲気につつまれ、締めは全員で校歌を歌い、「フレー フレー中央」と母校にエールをおくって、お開きとなる。毎年30～40名の会員のご出席を得ているが、さらに多くの会員の皆さんのご出席をお待ちしております。

③ 部制について

会の円滑なる運営をはかるために役員がそれぞれ分担して企画にあたっている。

広 報 部

会報（白門会ニュース）を発行する。

その他広報に関すること。

事 業 部

本会主催で行う事業、ならびに他団体に協力する事業の計画・運営に関すること。

例 市民まつり さくらフェスティバル 学術講演会

厚 生 部

会員を対象にした福利厚生、親睦等に関する行事の計画・運営

例 新年会 旅行会 納涼会

組 織 部

会員の消息の把握

会員名簿の作製

規約、規則に関すること

④ 恒例の行事

●市民まつりに参加

国立市では商店街の活性化と市民の交流、さらには市内外に対する街のイメージアップをはかるために毎年11月3日を中心に大学通りをメインとして「市民まつり」を開催している。

我が国立白門会は昭和55年以降毎年参加して、市民との交流、母校のPRに努めている。いまでは国立白門会と云えば「あ～ 中央大学の……」と市民にも認知されるようになりました。

国立白門会と染め抜いたテントを張り、テーブルを置いて会員の皆さんからの提供品を並べて販売し、売上金は会の活動資金に充てるわけです。

提供品は石鹸、タオルなどの日用品から庭花、山崎相談役作の盆栽、会員の奥様がた手作りの小物などいろいろです。大きなものでは、中古テレビ などもあります。最近では印刷会社から余った用紙を取り寄せて、びっくりするような安いお値段で販売などもしております。会員の皆さん！ 品物のご提供お願いしま—す。

●さくらフェスティバルに参加

国立市は“さくら”の名所、3月の下旬から4月の中旬にかけて、“大学通り”や“さくら通り”は桜の花で埋めつくされます。そのような中で“さくら通り”に面した第三公園を中心に恒例の「さくらフェスティバル」が開催されます。

春のやわらかな日差しを受けて開放的な雰囲気の中で大きな声を出して庭花などを売り、自分たちも大いに楽しんでおります。奥様がたも応援してくれます。会員の皆さん！ぜひお立ち寄りください。

●新年会

国立白門会の良いところは会員本人だけではなく、家族を含めたお付き合いがあるということです。新年会には奥様方も多数参加し、とても華やいだ雰囲気の中でカラオケやゲームに興じ、時にはダンスまで飛び出すという年初にふさわしい楽しい行事です。近くになりましたらあらためてご案内いたします。ふるって、ご参加下さい。

●旅行会

我が支部ではご家族の皆さん、ご友人を含めて大いに楽しみ、そして会員相互の親睦をはかるために、年1回旅行会を企画しております。厚生部担当の最大の行事となっております。

平成元年以降の旅行会は下記の通りです。

平成元年6月17日	潮来水郷めぐり	鹿島神宮、香取神宮、潮来十二橋めぐり
2年6月9日	馬籠・妻籠宿を訪ねて	藤村記念館
3年6月8日	信州・鹿教湯から松本城へ	かんぼ保養センター
4年6月13日	上州路へのバスハイク	水沢観音、伊香保温泉、徳富廬花記念館
4年7月19日	箱根強羅に一泊旅行	登山鉄道のアジサイ見ごろ、翌日ゴルフ
5年7月24日	河口湖方面バス旅行	浅間神社、ハーブ園など
6年7月13日	柏崎原子力発電所見学と 岩室温泉一泊旅行	弥彦神社
7年8月25日	NTT(霞が関ビル内) 見学と夕食会	実用化間近-テレビ電話
8年10月20日	伊東一泊旅行	宇佐美みかん園
9年10月23日	青梅「かんぼの宿」一泊旅行	玉堂美術館、紅梅苑、藍染工房

●納涼会&見学会

近くのレストラン等に気軽に集まり、夏のひとときを楽しむ。これも恒例の行事になった。

- 平成3年7月13日 谷 前市長の慰労、井上、風間、青木3氏の市議当選の
お祝いを兼ねて 谷保駅近くの“すえひろ”
5年10月22日 日本銀行貨幣博物館見学と会食 (六本木)
9年7月18日 聖蹟桜ヶ丘からバスで約10分 多摩ビール(魁-ル) ビア倶楽部
10年8月8日 国立駅南口 ビアホール「ライオン」

●くにたちウォーキング

毎年10月10日 体育の日には市の行事としてすっかり定着した「くにたちウォーキング」に参加。歩く距離は南部地域を中心に約12km。参加者は700名以上。

毎年参加をしても、歩いてみるとまた新たな発見に出会う。

豊富な湧水が出る場所、清らかな流れの矢川、広大な多摩川、パノラマのように見える多摩の山々、コスモスの群生地、いにしへの城の跡、充実した一日になりますよ、来年は是非ご一緒しませんか。

⑤ 学 術 講 演 会

中央大学では学術講演会運営委員会主催による講演会を学員会支部の協力を得て、全国各地で公開講座を開催しております。

我が支部も広く国立市民の皆さんに母校の諸活動の一端を認知してもらうため下記の通り協賛いたしました。毎回、支部会員及び一般市民が約60～70名来場し、講演終了後の質疑の時間には意見、質問も多く、予定の時間をオーバーすることがしばしばありました。

- 平成元年10月13日 会場 くにたち市民芸術ホール
講師 俳優 丹波 哲郎氏
落語家 三遊亭竜楽氏

「当日は三多摩地区連絡協議会の絶大なご支援をいただきました」

- 平成5年11月14日 会場 国立公民館
講師 法学部教授 藤本哲也先生
演題 子供の問題行動と家庭教育

講師 経済学部助教授 浅田統一郎先生
演題 バブルの物語

- 平成 7年11月12日 会場 国立公民館
講師 理工学部教授 岸 信行先生
演題 いじめ自殺とその周辺

- 平成 9年11月9日 会場 国立公民館
講師 経済学部教授 前田利昭先生
演題 香港返還と上海の今後

⑥ 中央大学学生会本部

中央大学では卒業生を会員と称しています。卒業生は明治、大正、昭和、平成の時代を通じて、社会のさまざまな分野で活躍しています。

学生会の目的は、母校の興隆と発展に寄与することです。そのために、全国に地域支部を広げ、職場や同期などの会員の集まりを育成、支援しております。

本部の代表的な事業・活動は多摩キャンパスの観桜会、文化講演会、学術講演会、会員講師の派遣、父母連絡会との交流、留学生を励ます会などの主催、協賛です。

国立白門会も地域支部の一員として、学生会の目的、主旨に微力ながら協力すべく、今後とも頑張ります。

⑦ 中央大学学生会三多摩地区連絡協議会

我が母校中央大学が所在する三多摩地区の支部が連携・親睦を深め、中央大学の発展に寄与することを目的に昭和60年10月26日「中央大学学生会三多摩地区連絡協議会」が結成された。

中央大学学生会三多摩地区連絡協議会規約

(名称・事務所)

第1条 本会は中央大学学生会三多摩地区連絡協議会と称し、事務所を会長宅におく。

(目的)

第2条 本会は、三多摩地区所在の支部・分会相互の連携・親睦を密にするとともに、未組織地区の組織化を推進し、中央大学の発展に寄与することを目的とする。

(組織)

第3条 本会は、三多摩地区所在の支部・分会をもって組織する。

(役員)

第4条 1. 本会に、会長1名、副会長若干名の役員をおく。
2. 会長、副会長は各支部長・分会長とする。
3. 会長は輪番制とする。

(経費)

第5条 本会の経費は、各支部・分会の分担金をもって充てる。

附則

1. この規約は、昭和60年10月26日から施行する。

平成10年10月現在の所属支部

支部名	支部長名	住所
八王子支部	岩崎 公	193-0942 八王子市栲田町 6 6
立川支部	市川 裕通	190-0022 立川市錦町 2 9 8
国立支部	能味 寿哉	186-0001 国立市北 8 0
日野支部	二澤 周次	191-0062 日野市多摩平 1 6 6
町田支部	前田 政治	194-0031 町田市南大谷 5 5
青梅西多摩支部	浅見 裕康	197-0011 福生市福生 1 0 4 8 5 5 1 4 3 7 1
三鷹支部	土屋 鉄蔵	181-0015 三鷹市大沢 0 5
調布支部	原 康	182-0021 調布市調布ヶ丘 1 3
小金井支部	保坂 正文	184-0003 小金井市緑町 3 4
小平白門会	竹内 富男	187-0011 小平市鈴木町 9 5

公的事業にご活躍の会員の皆様

1. 青木 健氏 国立市市議会議員（2期目） 国民健康保険運営協議会会長
2. 風間 健氏 国立市市議会議員（2期目） 市議会副議長
3. 市橋千鶴子氏 国立市法律顧問
4. 保延和夫氏 国立市行政問題協議会委員
5. 重野和夫氏 国立市教育委員
6. 丸本 大氏 行政相談員

歴代役員 (平成元年以降)

平成 元年 5月

顧問	中西 旭	市橋千鶴子	谷 清	酒井 博
相談役	福谷 実	丸本 大	山村鶴音	井上正博
支部長	村田 亘			
副支部長	井上定男	荒木繁幸	能味寿哉	山崎 武
幹事長	風間俊範			
副幹事長	新倉良平	小林 治		
組織部	小島泰義	大串源太郎	川村俊介	
事業部	風間 健	皆川友彦	久保田利雄	山口康雄
厚生部	二宮 巍	関 喜一	高橋雅幸	
広報部	金子泰久	平本聖子	玉利武人	伊藤陽司
会計	堀田 勲			
会計監査	穴戸勇之			

平成 2年 5月

風間俊範幹事長の八王子市転居に伴い第13回定時総会において役員の一部が改選された

幹事長	堀田 勲 (会計)
会計	高橋雅幸 (厚生部)
厚生部	青木 健

平成 4年 5月

顧問	中西 旭	市橋千鶴子	谷 清	酒井 博
相談役	福谷 実	丸本 大	山村鶴音	井上正博 井上定男
名誉会長	村田 亘			
支部長	能味寿哉			
副支部長	山崎 武	荒木繁幸	二宮 巍	金子泰久
幹事長	堀田 勲			
副幹事長	新倉良平	小林 治		
組織部	小島泰義	大串源太郎	川村俊介	
事業部	風間 健	皆川友彦	山口康雄	
厚生部	上田邦雄	関 喜一	青木 健	
広報部	伊藤陽司	平本聖子	玉利武人	
会計	高橋雅幸			
会計監査	穴戸勇之			

平成 9年 6月

顧問	中西 旭	市橋千鶴子	谷 清	酒井 博		
相談役	福谷 実	山村鶴音	山崎 武	二宮 巍	井上正博	金子泰久
支部長	能味寿哉					
副支部長	荒木繁幸	丸本 大	堀田 勲			
幹事長	風間 健					
副幹事長	新倉良平					
組織部	小島泰義	川村俊介				
事業部	山口康雄	若林 修				
厚生部	藤村俊夫	上田邦雄	関 喜一			
広報部	平本聖子	枝根 亨				
会計	高橋雅幸					
会計監査	穴戸勇之					

国立白門会20周年記念行事にご協力(寄付)をいただいたかたがた

平成10年11月 9日現在

浅見 高義	川村 俊介	真見 珠代	二宮 巍	山村 鶴音
荒木 繁幸	北井 治徳	真見 進	保延 和夫	吉垣 孝
石川 正明	北沢寿恵子	三遊亭竜楽	沼崎 末次	吉村 成一
市川 良夫	栗林 福二	穴戸 勇之	根本 俊臣	若林 修
市橋千鶴子	小島 泰義	重野 和夫	能味 寿哉	渡辺 義之
伊藤 勝己	後藤 光朗	関 喜一	平本 聖子	
伊藤 正浩	小林 進	関 福男	福谷 実	
伊藤 陽司	小林 治	高橋 雅幸	藤村 俊夫	
上田 邦雄	斉藤 寛	谷 清	丸本 大	
枝根 亨	佐伯 進	玉利 武人	堀田 勲	
岡田 忠臣	酒井 博	遠山 隆夫	宮沢 秀次	
風間 俊範	佐々木一郎	豊田 保	山崎 武	
加藤 正義	佐藤 安	中西 旭	山川 昌一	
金沢 啓次	佐藤 勝彦	中島 順敬	山田 一章	
金子 泰久	真見 敬	新倉 良平	山口 康雄	

(敬称略)

目 次

支 部 旗・ 中 央 大 学 校 歌	1
応 援 歌・ 惜 別 の 歌	2
ご 挨拶 支 部 長 能 味 寿 哉	3
祝 辞 顧 問 市 橋 千 鶴 子	5
中央大学学員会国立支部20年の歩み	6
国立白門会の発足	10
“村田 巨前会長を偲ぶ” 副会長 丸本 大	11
活動	
① 役 員 会	12
② 定 時 総 会	12
③ 部 制 に つ い て	13
④ 恒 例 の 行 事	13
⑤ 学 術 講 演 会	15
⑥ 中 央 大 学 学 員 会 本 部	16
⑦ 中 央 大 学 学 員 会 三 多 摩 地 区 連 絡 協 議 会	16
公的事業にご活躍の会員の皆様	17
歴 代 役 員	18
想いでアルバム	20
創立20周年記念事業	47

国立白門会創立20周年記念事業

式典 日時 平成10年11月29日(日)
13:00~13:40
会場 くになち市民芸術小ホール

記念イベント 13:50~14:50
会場 式典会場
出演 落語 三遊亭竜楽
講談 神田ひまわり

祝賀会 15:00~16:30
会場 ハーベスト(市役所地下職員食堂)

当事業推進委員

統括責任者 会長 能味寿哉
統括推進者 幹事長 風間 健
会計 高橋雅幸

(記念誌)	(式典)	(祝賀会)	(イベント)
堀田 勲	小島泰義	藤村俊夫	丸本 大
平本聖子	能味寿哉	上田邦雄	平本聖子
風間 健	風間 健	真見 敬	
丸本 大	二宮 巍	真見珠代	
上田邦雄	枝根 亨	若林 修	

国立白門会創立二十周年記念誌

はばたきⅡ

平成10年11月20日発行

発行者 中央大学学員会国立支部
支部長 能味 寿哉
〒186-0001国立市北2-4-28
印刷者 株式会社ジャノメサービス
〒193-0941八王子市狭間町1463